

平成26年度中学校武道授業(少林寺拳法)指導法研究事業



平成26年度中学校武道授業(少林寺拳法)指導法研究事業〔主催＝(公財)日本武道館・(一財)少林寺拳法連盟・日本武道協議会、後援＝文部科学省・勝浦市教育委員会、協力＝勝浦市立勝浦中学校〕が、6月13日(金)～15日(日)の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターにおいて、研究者5名、連盟事務局1名、日本武道館事務局2名により実施された。本研究事業は、平成21年度から実施し、今年度で6回目となる。

◆開講式

開講式では、公益財団法人日本武道館 三藤 芳生 理事・事務局長が主催者挨拶に立ち、今年度で3年目となった中学校武道必修化について、「大きな事故もなく実施できている。武道授業によって、生徒が礼儀正しくなった。教室にまとまりができた」など、武道必修化への文部科学省からの成果の報告について述べた。



続いて、(一財)少林寺拳法連盟 中学校武道必修化プロジェクト委員会 委員長 中島正樹研究者より、「生徒に生きる力を身につけさせるというのが教育界において最大の課題となっている。武道の授業がそれに直接繋がるものでなければ意味がない。本研究事業は、生徒の関心・意欲を高めること、生徒をやる気にさせるような指導法の確立を目指していく。」と、目的・目標について述べた。



◆総合打合せ

総合打合せでは、始めに、中島正樹委員長より本研究事業3日間のコンセプト説明がされた後、2日目に行う模擬授業の各時間を担当する研究者より概要説明がされ、最後に動作の確認を、研究者全員で行った。

◆指導法指導案予備講習

夕食後の夜の時間を利用し、指導法指導案予備講習として、2日目の模擬授業指導案の共有と、学習カードの項目の検討を行った。最後に授業を行う際の注意点などについて共通認識等を行い、1日目の日程を終了した。

◆指導法実践研究(模擬授業)

勝浦市立勝浦中学校の協力を得て、少林寺拳法経験のない14名の生徒に対し、指導法実践研究(模擬授業)を行った。指導法実践研究(模擬授業)においては、毎時間の授業終了後に生徒自身が記入する学習カードを用意し、各時間の自己評価・到達度などを確認できるようにした。

◎1時間目(担当：向田研究者・小井研究者)

始めに、少林寺拳法の礼法から授業に入った。結手構、合掌構(礼)、着座・安座、中段構の順に指導し、少林寺拳法の礼法の意義についても説明がなされた。



続いて、1日を通してグループ学習をする際の、グループ分けをし、最後に2時間目で行うリズムに合わせて身体を動かす動作に触れた。

◎2時間目（担当：小井研究者）

少林寺拳法の基本的な動作を、AKB48の「恋するフォーチュンクッキー」の音楽に合わせて、研究者の動きとパワーポイントの画面で確認しながら行った。各場面で「ヤー！」と発声をさせるようにし、音楽に合わせて、元気を出して楽しく少林寺拳法の動作に取り組みさせた。



◎3時間目（担当：合田研究者）

2時間目に音楽を合わせて行った少林寺拳法の基本的な動作を、3時間目では、音楽を流さずに号令のみで行った。この時間で、音楽に合わせて行っていた動作は、少林寺拳法の動作であることを生徒に認識された。

続いて、グループ学習に切り替え、生徒たちは、これまで行ってきた技をグループごとに内容を確認しながら練習をおこなった。



◎4時間目（担当：中島研究者）

5時間目で行う演武会に向け、まずは研究者4名でデモンストレーションを行った。その後、3時間目に引き続き、演武会に向けてグループごとに練習をし、生徒たちは気をつけなければいけない点などをボードに書き込み、互いに声を掛け合いながら練習をおこなった。

◎5時間目（担当：小井研究者）

グループごとに演武会によって、演武発表を行った。グループごとに演武を行うことによって、互いに声を掛け合い、修正しながら演武をしている場面が随所にみられた。

◆研究協議

指導法実践研究（模擬授業）の写真や動画を

上映しながら、各時間を担当した研究者から、感想や指導して気が付いた点を発表していった。「音楽に合わせて動作を行うことによって、受けの手や蹴りの脚が高く上がっているなどの効果があった。」「音楽は流れ続けるため、生徒たちは止まらずに失敗しても周りに合わせて仕切り直すことができる」など、音楽に合わせて動作を行う利点がいくつか上がった。また、グループ学習について、「共同による高め合いができていた。」「人数は4人1組が理想形。それ以上多くなると話し合いに参加せずに聞いているだけの生徒が出てくる。」などの意見が出た。

◆事例研究指導法研究

小井研究者と久保研究者から事例発表研究がなされた。

小井研究者からは、座禅や講話を取り入れた授業や、地域の外部指導者を活用した授業が紹介された。また、所属校のある岡山県笠岡市では、市の教育委員会の方針で剣道授業を行うこととなっており、年間を通じ、剣道と少林寺拳法の両方の授業を行っているという発表もされた。

久保研究者の発表では、少林寺拳法授業の教科としての最終目標を、体育祭での集団演武の完成を目標に掲げているということや、You tubeに生徒自身の演武の動画をu pして、予習・復習などに役立てるといったような、ICT教材の活用例についても紹介がされた。

◆閉講式

閉講式では、(公財)日本武道館 吉川 英夫 振興部部長が、主催者挨拶の中で、平成26年3月に実施された武道振興大会の決議文に触れ、「複数種目の実施というのがこれからの少林寺拳法授業の普及のヒントになろうかと思う。」と述べ、最後に小井研究者より研究者講評を頂き、研究事業3日間の全てに日程が終了した。

◇研究者

中島 正樹 (富士見丘中学校・高等学校教諭)
合田 雅彦 (愛媛県少林寺拳法連盟副理事長)
向田 弘之 (SHORINJI KEMPO UNITY 師家部局)
小井 寿史 (笠岡市立新吉中学校教諭)
久保 誠一 (富士見丘中学校・高等学校保健体育課主任)

◇少林寺拳法連盟事務局

田中 由喜

◇日本武道館事務局

吉川 英夫 今寺 直人 (順不同・敬称略)